

主日礼拝

2026年6月7日 10時20分～

司式:

奏楽:

「話さないではいけない」

《神の招き》

前	奏	『ベルスーズ (子守歌)』ルイ・ヴィエルヌ
招	詞	詩編50編7節
賛	美	歌 『あたらしい歌3』21 “主の御手の中で”

《神の言葉》

祈	禱	聖霊の照らしを求める祈り
聖	書	歴代誌下15章1～8節 (旧約676頁)
		使徒言行録4章13～31節 (新約215頁)

子ども説教		
交読詩編	詩編69編15～22節	(79頁)
賛美歌	564	
説教	「話さないではいけない」	八木浩史牧師
祈禱		
賛美歌	405	

《感謝の応答》

信仰告白	使徒信条	
献金		
祈禱		献金当番
主の祈り	(週報表紙、ホームページ掲載)	

《派遣》

頌	栄	39-6
祝	福	
報	告	6月誕生者祝福
後	奏	『ロンポン城礼拝堂のカリヨン』ルイ・ヴィエルヌ

『歴代誌下』では、南ユダ王国の王アサの宗教改革を支えた預言者アザルヤの勧告と、それを受けたアサの決断を記しています。この時代は国内外に騒乱が起こり、人々は戦争や災害に苦しめられていました。偶像崇拝に溺れていたことによって、主なる神への信仰を見失い、南ユダ王国においても平安や希望が失われていたのです。その時、神の霊に遣わされた預言者アザルヤがアサ王に、主を求めると主は現れて助けてくださるが、主を捨てるなら、主もあなたがたを捨てられると告げました。アサはこの預言を聞いて、忌まわしい偶像を国内から取り除きました。また、主の神殿にある祭壇を修復し、民が真の神への礼拝に立ち返るための改革を進めました。アサ王の宗教改革により、その治世の間、南ユダ王国は主に守られ、安らぎが与えられたのです。

『使徒言行録』では、ペトロとヨハネが神殿で大胆に主イエス・キリストを証している姿に、議員や指導者たちは驚きます。二人が主イエスと共にいた者であることが分かると、指導者たちはイエスの名によって語ったり教えたりしないよう厳しく命じます。しかしペトロとヨハネは、「神に聞き従うより、あなたがたに聞き従うほうが、神の前に正しいかどうか、ご判断ください。私たちは、(主イエスの救いについて) 見たことや聞いたことを話さないではいけないのです」と明確に答えます。釈放された二人は仲間たちのもとに戻り、共に祈ります。そして迫害からの解放ではなく、神の御言葉を大胆に語れるよう願いました。そして、主の御名によって癒やしや、しるしが行われるよう求めます。恐れに支配されるのではなく、聖霊の力によって勇気を与えられ、主イエスの福音を大胆に語り続けたのです。

礼拝当番:	(役員:)	献金当番:
音響:		映像: